

令和7年度

特別の教育課程の実施状況及び評価等について

1 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程を編成・実施する学校

つくばみらい市立小絹小学校

(2) 特別の教育課程の概要

「グローバル人材」の育成を目指し、急速に進展するグローバル化に対応することができる人材を育成するため、小学校 1年生～2年生において、生活科の35時間分(1年生は34時間分)を設定する。

「英語活動」においては、つくばみらい市独自に配置している。外国語指導助手(ALT)との交流の機会を多く設け、体験的な活動をとおして外国語や異文化を理解し、自他の文化や価値を尊重することができるグローバルな視野や態度の素地を育む学習を行う。

(3) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

つくばみらい市では、幼小中において連続性のある教育を推進し、就学前の公立幼稚園でも、英語を用いた遊びなどを積極的に取り入れたり、外国人講師との英語での交流機会を設けたりしている。

この幼小中における学びの継続性から、就学前の学びを小学校入学後においても継続する必要性があり、特別の教育課程を編成する必要がある。

(4) 特例の適用開始日

令和6年4月

(5) 取組の期間

令和8年3月 31 日まで

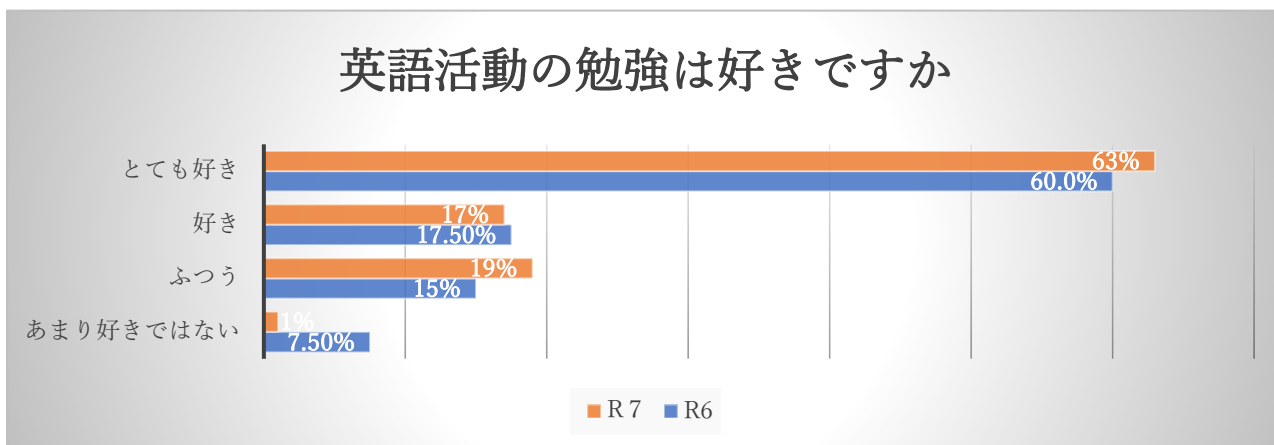
2 特別の教育課程の編成・実施計画に基づく実施状況

○計画通り実施できた

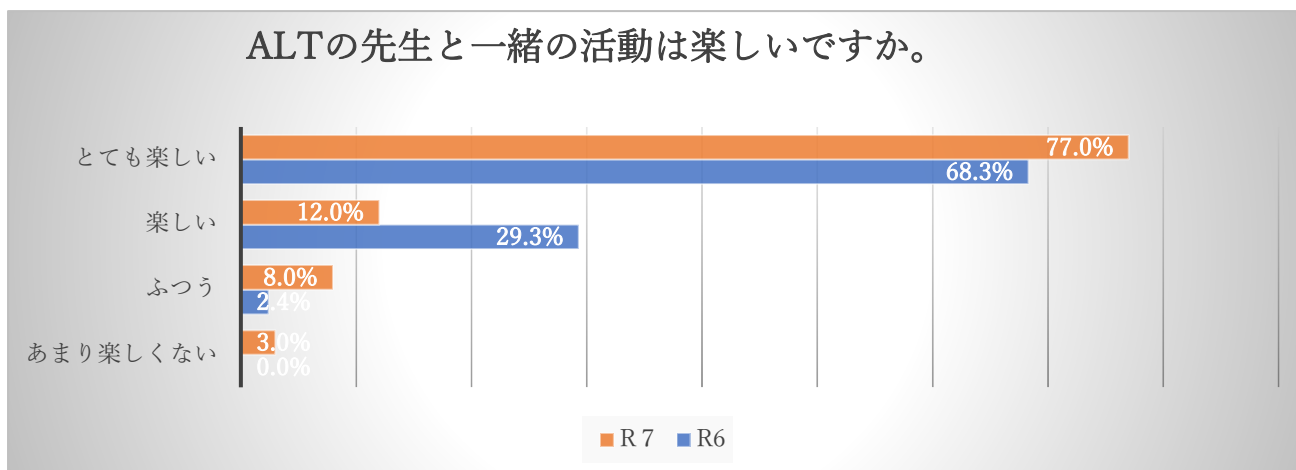
3 特別の教育課程に基づく教育の実施状況に関する自己評価結果

(1) 第1学年児童による評価

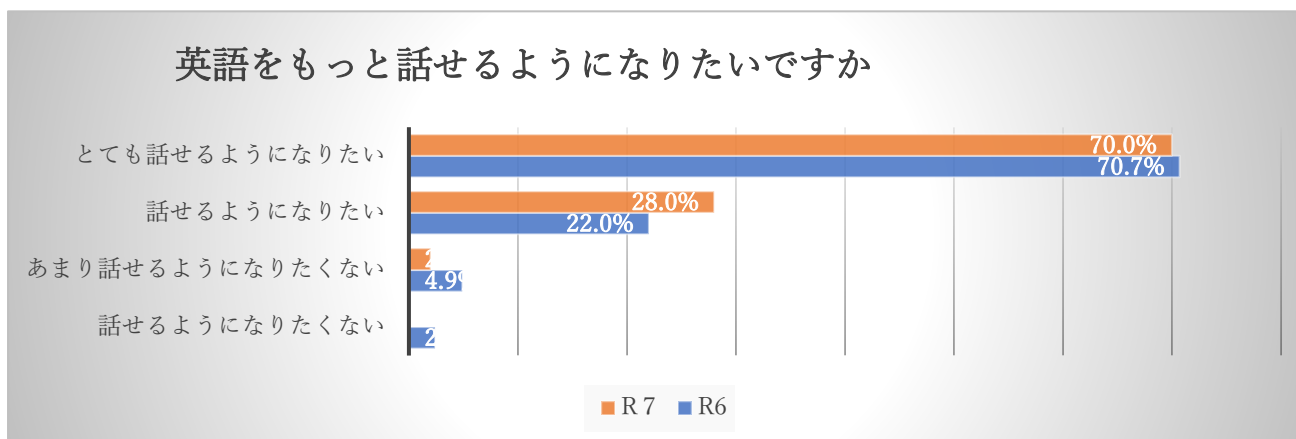
① 英語活動の勉強は好きですか



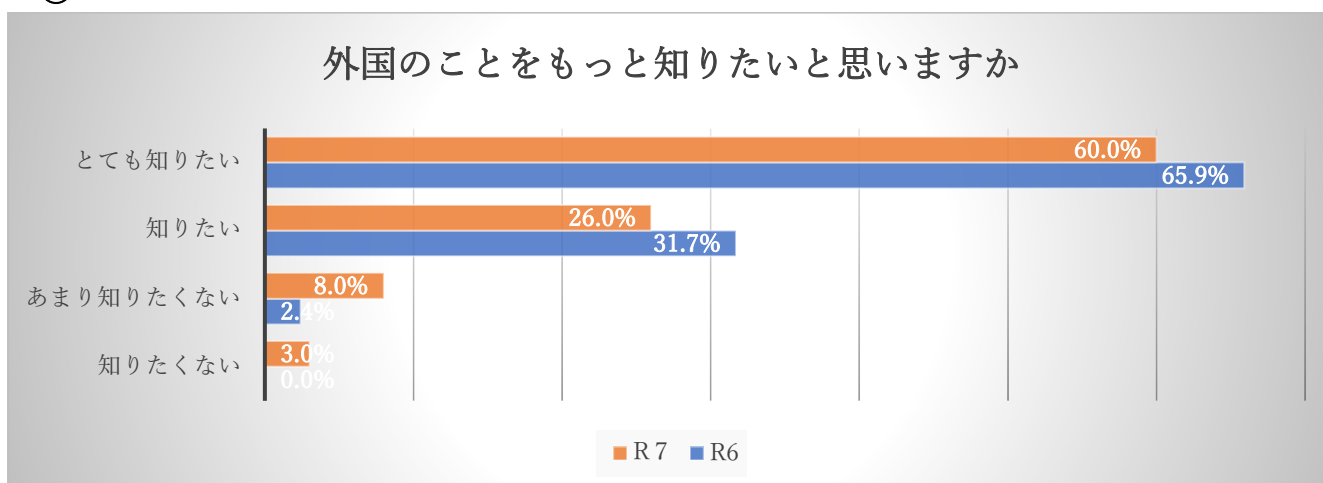
②ALTの先生と一緒に活動は楽しいですか。



③英語をもっと話せるようになりたいですか。

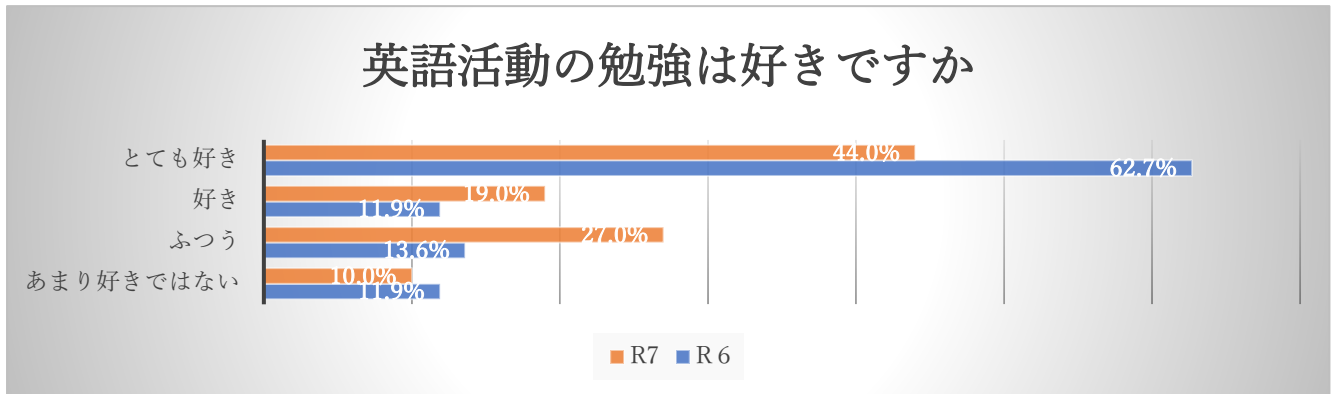


④外国のことをもっと知りたいと思いますか。

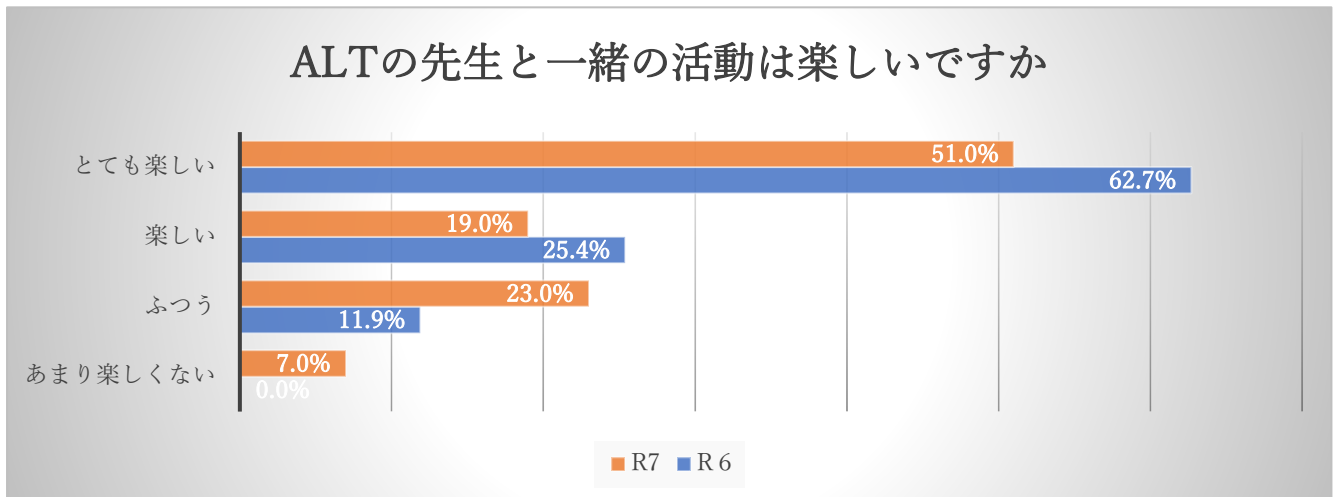


(1) 第2学年児童による評価

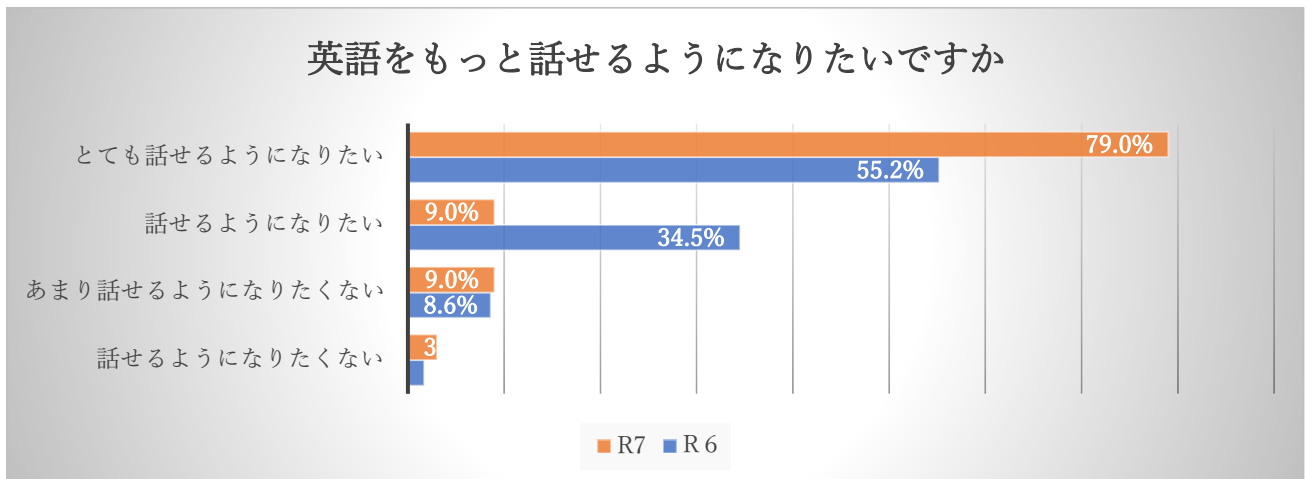
① 英語活動の勉強は好きですか



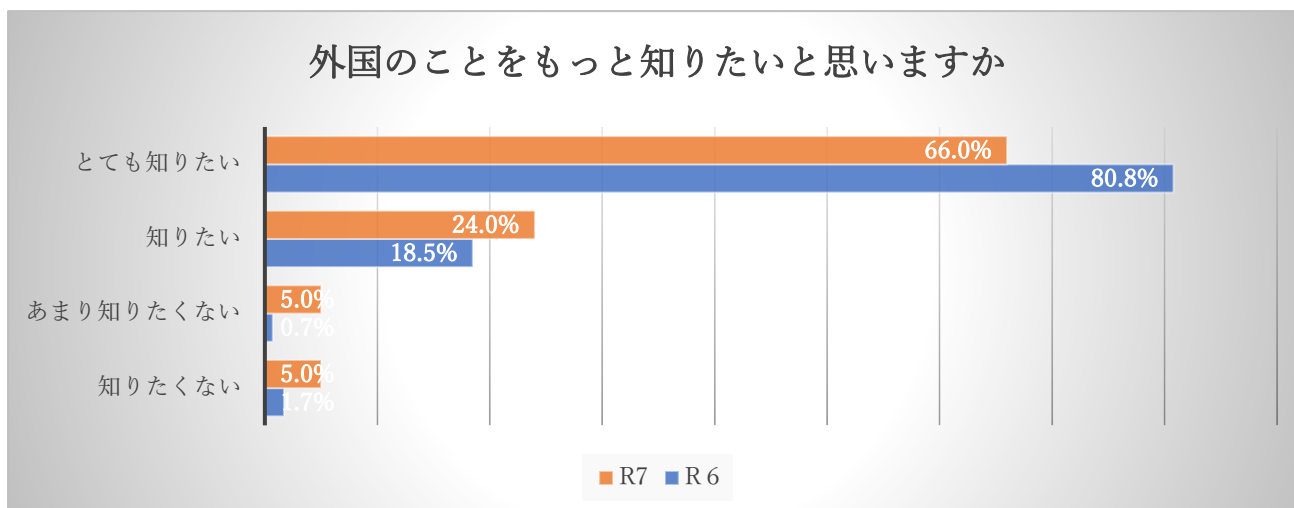
② ALTの先生と一緒に活動は楽しいですか。



③ 英語をもっと話せるようになりたいですか。



④外国のことをもっと知りたいと思いますか。



(3) 保護者による評価

① 小学校1年生から外国語教育に取り組んでいることについて、どのようにお考えですか。

回 答	割合 (%)
とてもよい。	69.6%
よい。	26.1%
あまりよくない。	2.9%
思わない。	1.4%

② お子様は、外国語教育の時間を楽しみにしていますか。

回 答	割合 (%)
とても楽しみにしている。	79%
楽しみにしている。	9%
あまり楽しみにしていない。	9%
楽しみにしていない。	3%

③ 小学校1年生から外国語教育に取り組んでいることで、お子様が英語を繰り返し学ぶ機会が増えていると思いますか。

回 答	割合 (%)
とても楽しみにしている。	63.8%
楽しみにしている。	17.4%
あまり楽しみにしていない。	14.5%
楽しみにしていない。	4.3%

- ④ 小学校1年生から外国語教育に取り組むことは、グローバルな視野を身に付けることに  
つながると思いますか？

回 答	割合 (%)
とてもそう思う。	62.3%
そう思う。	30.4%
あまり思わない。	7.2%
思わない。	0%

- ⑤ 小学1年生から外国語教育に取り組むことで、お子様にどんな力がついていると思いま  
すか。

回 答	割合 (%)
積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度	26.1%
英語を聞く力	60.9%
英語を話す力。	49.3%
異文化への理解。	52.2%
相手に配慮する態度	8.7%

### (3) 職員による評価

- ① 小学校1年生から外国語教育に取り組んでいることはよい。

回 答	割合 (%)
大いにあてはまる。	62.3%
あてはまる。	30.4%
あてはまらない。	7.2%
全くあてはまらない。	0%

- ② 小学校1年生から外国語教育に取り組んでいることで、児童が英語を繰り返し学ぶ機会  
が増えている。

回 答	割合 (%)
大いにあてはまる。	36.8%
あてはまる。	47.4%
あてはまらない。	15.8%
全くあてはまらない。	0%

#### 4 実施の成果と今後の課題

##### (1) 成果

小学校 1 年生から始まる義務教育 9 年一貫の体系的な英語教育は、単なる語学学習の枠を超え、異文化を理解し、自他の価値を尊重する「グローバルな視野」を育む基盤となる。小学校 1 年生から外国語活動に取り組むことで、外国語をもっと話せるようになりたい、児童の「もっと知りたい」という純粋な好奇心を大切に守りながら、他者と協働して課題を解決する「探究的な学び」を推進する素地が培われた。

##### (2) 課題

学年間で差があり、聞き取れない音声（単語や文章）への抵抗や難しさを感じている児童が多いと感じた。学びを深めていくために単なるリピート練習ではなく、児童が「伝えたい」「聞き取りたい」と感じる場面を設定し、チャンツやゲームを積極的に取り入れ、音声に反応する楽しさを再構築していく。更に、児童が「学び取りたい」と感じる身近な話題を設定し、思考力・判断力・表現力を伴う対話を取り入れていきたい。